

シーン4

「こんばんは勇者様。あぁ、ようこそいらっしやいました」

「今日は頭数が多いですが、あまり気にする必要はないですよ」

「ふふふ、皆さま初めて見る顔ですか？ 見た目は初めてなのかもしれませんが、知っている人たちですよ。だって、ここにいる眷属の方々は元々シスターだった人や、村人の方しか居ませんから」

「村の人たちはみんな勇者くんによくしてくれていたでしょう？」

「今は……ふふふ、皆さん楽しそうに性を貪っておられますねえ。乱交というやつですね。あぁ、楽しそうですね。心から悦んでいるのが伝わってきます」

「吠える声も、沸き上がる喘ぎ声も、すべて神様に捧げる讃美歌……皆さんがそれぞれ好きに奏でている素晴らしい風景です」

「キミも仲間に加わりたいですか？ ふふふ、答えはその発情しきったメス顔を見ればわかりますね」

「もう、あなた以外の人間は居ませんから。ええ、皆さん神様の眷属です」

「キミは勇者としての素質が邪魔して時間がかかってしまいました。今日でようやくきちんと最後まで祝福してあげれます。前の神の不要な素質なんて取り払って、新しい神様のとっても素敵な祝福で本当の勇者として、にんげん達を楽園に導く眷属として生まれ変わらせてあげます」

「もう私、嬉しくて……ふふふ」

「キミはただ、おちんちんで皆さまに祝福を与えるオスでも、気持ちいいを好きなだけ貪れるメスでも、

「どちらでも」

「ずっとおちんぽ様に気持ちよくしてもらえる素敵な毎日がおくれるようになりますよ。さあこちらの祭壇へ……はい、こちらで皆さまにあいさつをしましょうか」

「勇者くんのために、集まってくれた、眷属の方々ですよ」

「皆さんのおちんちゃん様、ギンギンでキミを祝福したくて待ちきれないみたいです」

「んっ、はぁ……本当に、キミのメス穴は素晴らしいですね。締めりはずっとキツイまま。それなのに、ふたなりチンポをこんなにもすんなり飲み込んでしまうんですから……んぁっ♡……ふふ♡」

「アナルを貫かれて、悦んで声をあげちゃう勇者くん。本当に可愛らしいです♡」

「こんなにも、ズボズボしても……んふう、ただただ気持ちいいだけになってしまっていますね♡」

「もうお顔がトロトロですよ♡ ふふふふっ♡」

「おちんちんで貫かれるのは、気持ちいいですからねえ……んっ。私も、眷属のいろいろなチンポを味わわせていただきました。カリ首がガッチリしていて、膣壁をゴリゴリとえぐり続けるチンポ。女性の手首くらいの太さのチンポは、膣肉を内側から拡げていく感覚が心地よかったです。そして、鉄のように硬く、長いおちんぽさん……子宮をつぶされながら、感じる快感は素敵でしたわぁ……」

「んっ♡……ふう♡……ふふふ、少し思い出してしまって、身震いしてしまいました♡」

「今はキミの、アナルを犯しているのは、私のおちんちゃん様、なんですけどねえ……んふふふ♡」

「キミだったら、どんなおちんちゃんを、入れてもらいたいですか？」

「先ほど、紹介した、おちんちゃん達は、今ここに、いらっしやいますので……んっ♡」

「勇者くんが祝福を完全に受け入れたら、お祝いとして全員にずぼずぼしてもらいましょうね」
「んんっ♡……あっ♡ うっ……はぁ♡ ふう♡……すっごく締め付けが、キツくなりましたね♡ 想像して、気持ちよくなっちゃったんですか？ もう、本当に可愛いですね、キミ」

「ゾクゾクしちゃいます。んあっ……はぁ、はぁ、気持ちいいですよ、キミのメス穴アナル……♡」
「こうやって、んっ！ 思いっきり、強く、突き上げてもおっ、んっ♡……キミには全部、気持ちいいんですよね♡ あぁ♡ これ、すきい♡ この穴♡ 本当に、気持ちいいですう……んんっ♡♡」
「キミのおちんちんくんも、ビクビク、しながら、我慢汁、たれながしてますねえ♡」
「あらあら♡ 自分でシコシコ、しちゃうんです？ ふふふ、じゃあ、一回出しちゃいましょう♡」
「私のおちんちん様も、キミのメス穴にいっぱい、出しちゃいますから……んんっ♡」
「あぁ……精子、上がって、来てるう♡……んあぁっ♡ はぁ、はぁっ♡ ふうんっ……んんあっ！」
「もう、出ますっ、出ちゃうっ♡……メス穴アナルに、全部、ぶちまけて、あげちゃいますねえ♡！」
「んあっ♡！ せーし♡ ふたなりせーしせり上がってえっ♡！ うひいんんっ♡♡♡！！」

「ああああ♡♡ んっ♡……んう♡ はぁ♡……はぁ♡……はぁ♡……ふう♡……んっ♡」
「いっぱい、注いじゃいましたぁ……ふふふ♡」
「ああ♡ キミのおちんちんくんも♡ すっごく出せましたねえ。えらいねえ♡」
「お尻犯されながら、ピュッピュしちゃうなんて、気持ちよかったですねえ♡」
「今日は、金玉全部からっぽになるぐらい、出しちゃいましょう♡」
「ほら、もっとシコシコしてください。今のキミだったら、おちんちんくんは萎えることはないと思います」

すよ♡」

「ふふふふ、気持ちいいこと、いっぱいしましょう♡ 考えるのがめんどくさくなるくらい♡ いっぱいしましょう♡」

「ああ、お顔トロトロですね♡ 体もずーっと震えっぱなしじゃないですかあ♡」

「んっ♡……はあ……メス穴がきゅうきゅう締め付けてますよお♡ 本当に淫乱なんだからあ♡」

「シコシコするの気持ちいいですねえ、感じやすい体になった証拠ですね、よかったですねー♡ 祝福を続けて来た賜物です♡……んふ、私も再度、微力ながら、お手伝いしてあげます♡」

「あはあ♡ すごいすごい♡ 精子がびゅっびゅって噴き出してますよお♡」

「私のおちんちん様で深いところまで、突き上げるとお♡ んんっ♡ 出ちゃうんですね♡ イキっぱなし、感覚がバカになっちゃってるかもしれないですねえ、ふふふ♡」

「おちんちん様で、じゅぼじゅぼされるの、本当に好きですよね♡ キミ……ああ、可愛い♡」

「気持ちいいことしか、考えられなくなってきちゃってますね♡ ふふふ♡ 素直で素敵ですよお♡」

「早く私と眷属になりましょう？ そしたらあ、迷える人間にたーくさん祝福してあげて♡ いーぱい洗礼の儀式しちゃいましょうね♡」

「きっと楽しくて、気持ちいいですよお♡」

「もっともっと、眷属を増やすんです♡ 今のキミみたいに、おちんちん様でじゅぼじゅぼされて、んふっ♡ おちんちんのことしか、考えられなくしちゃいましょうね♡」

「幸せですよ？ 素晴らしいですよ？ こんなこと、私達だけでするのはもったいないです♡」

「だから、たくさんの人間に、広めてあげましょう？ この、素晴らしい、祝福を……んあ♡♡♡」

「はあ♡ ああ♡ 勇者くんの中、ずっとビクビクしっぱなしです♡ すごいっ……んっ♡」

「射精しっぱなしだからかな？ んんっ♡♡！ ぎゅうぎゅうって、終わることなく、ずっと締め上げられてる感じ♡ んあ♡……こんなの、私もイっちゃいます♡……んあ♡ あう♡ 気持ちいい、これ、本当に、すごい♡」

「さっきよりも、すごいことに、なってるうっ♡……んんっ♡！」

「ずーっと精子、出しっぱなし♡ おちんちくんも、バカになっちゃったねえ♡ んん♡ ああ♡♡もう。無理いっ♡♡♡」

「私、また、イっちゃうっ♡♡……キミのメス穴、ホントにすごいよおっ♡！ んっ、んう♡♡ はあ、はあ♡ はあん♡♡ イク♡♡ イク♡♡ イくうう♡♡！ んっ♡！ んんあ♡♡ ああああ♡♡♡！」

「あっ……はああ♡……はああ♡……くっ、んん♡……ああ♡ 入りきらない、精子が……いっばい、溢れて……んん♡♡」

「キミのも、すごい、出てるね♡……んっ♡……はあ、はあ♡ はあ……♡」

「ふふ、ふふふっ♡……私達の、出した精液で♡……足元に精液の池、作っちゃってます……♡」

「こんなに、出しちゃったんですね……気持ちよかったですね。よかったですね……♡」

「私も、キミのメス穴でたくさん出しちゃいました……本当に名器ですよ♡♡ メス穴としては一級品で

す♡」

「おちんちんの付いたメス穴……女の子より可愛く喘いでくれるんですもの、本当に素敵です♡」

「さあ、いよいよですよ？ ……あと一回出したら、キミ人間やめちゃいますけど、どんな気分です？」

「ああ、聞くだけ無駄でしたね♡ おちんちんで、突いて突いて、じゅぼじゅぼされまくってえ……奥の奥で熱いのぶちまけてくれれば、何でもいいって顔してますもんね♡」

「勇者くんも、ふたなりチンポせーし、だあい好きになってくれて、私もすごく嬉しいです♡ ふふふ♡」

「気付いていますか？ 周りの眷属の方が全員私達……いえ、キミに注目しているのを」

「サキュバスさんもスライムさんもラミアさんも、いろいろ、勇者くんの乱れる姿を見て、興奮してしまっているみたいですね♡」

「村中の眷属さん達が十数本の勃起したチンポを全部キミに向向けているの见えます？」

「みんなでキミに最後の祝福をしてあげます♡ 一斉に皆さんの祝福汁をぶっかけてあげますから、中と外にくっさい白濁液をぬりたくりますよ、おちんちん好きのメス穴勇者様にふさわしい洗礼でしょう、きつと気に入ってくれると思います。古い神の加護なんてこれで上塗りしてあげますね♡」

「ふふふ、みなさんは準備はできているようですね。すでに射精寸前のようにですよ？」

「スライム娘さんのチンポはながくて胃の中まで犯してくれそうですね。とろとろでとってもおいしそうですね♡」

「とってもぶつといのから、すっごいせーしがでるもの、いろんなおちんぽで祝福してもらいましょうね。」

勇者くん♡」

「心配しなくても、私はずっとキミのアナルをふたなりチンポでずりずり、じゅぽじゅぽしてあげてますから、遠慮せずにお口や手で皆さんの祝福を手伝ってあげてください♡」

「んっ、両手におちんちん握って嬉しそうにお尻の穴せばめちゃって、そんなにせーし欲しいんですか？それとも、ふたなりサキュバスのちんぽの匂いで興奮します？ 皆さんにお尻の穴ほじられてるところ見られて興奮しちゃう変態さんに育ってくれて、私とても嬉しいですよ♡」

「ああ、いい声。メスブタみたいに鳴いてくれるなんて、もっともっと、聞きたくなります♡ せーしにまみれながら幸せそうな嬌声をみんなにも聞かせてあげてくださいっ。ね♡」

「オーク娘さんの片手で握れないほどふとーいおちんぽがんぼってシコシコしてる姿も、悪魔っ娘さんのとろけるような甘いにおいのおちんぽにむしゃぶりついてぐぽぐぽ味わってる姿も、とってもかわいいですよ勇者くん♡」

「もちろん、私のふたなりチンポをメス穴に突き付けられてビクンビクンはねてる姿も♡ 全部受け入れて気持ちよくなりましょう♡ ふふふ、きみのおちんちんもピュッピュ一生懸命射精してせーし出してますね♡」

「もっと出しましょう♡ いっぱいせーし出されて、出して、ぐちゃぐちゃになって溶けちゃいましょう♡ 口の中も鼻の奥もケツ穴も、体中、皆さんのちんぽで祝福されて気持ちいいでしょう？」

「祝福されて神様の眷属になった皆さんのようにおちんちんのことしか考えられないようになって、ずっとずーっと幸せに暮らしましょう♡」

「はい、これで全員から祝福してもらえましたね。えらいえらい。あら、まだ足らなそうな顔してますね。いいんですよ、神様は全部許しちゃいます♡」

「それじゃあ、最後に私がキミのアナルの奥にいっぱいせーし出して祝福してあげますね♡」

「それで、勇者くんの洗礼はおしまい、立派な神様の眷属になれるはずですから。いいですか？ もう、おねだり上手になっちゃって……♡」

「それっ、すっかりキミのアナルは私のふたなりチンポ専用になっちゃいましたね。んっ、私もキミのアナルをちんぽでぐりぐりするの大好きですっ、んあっ！ ハア、ハア……んっ、んん、ちゅぽっ、んぽっ、ふうんんっ！ はふっ、せーし味のキス、とろけちゃいますね♡」

「勇者くんも必死に腰を振って、んあっ！ もう心の中はすっかりふたなりチンポの虜ですね♡」

「さあ、もういいですよね♡ はあ、はあっ♡最後の祝福で生まれ変わりますよう。今でも、こんなアナルにふたなりチンポくわえ込んで悦んでる変態さんですから、んっ！ とってもかわいく生まれ変われると思いますよ♡」

「あはは♡ ちっちゃな可愛いチンポがさらに硬くなってビュッビュッって射精止まらなくなってますね。んんっ！」

「あふっ！ 私ももう我慢できないい！ 勇者くんの中にふたなりチンポつきこんで祝福精子いっぱい、

いっぱい出しちゃうのっ♡」

「んあああ！ ひうんっ！ あ、ああ、っふああんっああ♡♡♡！！！！」

「……ふぁ♡……ん……はぁ、はぁ♡……ああ♡ 想像通りです。祝福を受け入れて人間じゃなくなったキミはとってもかわいいですよ♡」

「ふふふふ、あんなに出してもらったのにもうおねだりですか？ 新しい勇者様はとっても信仰心が高く立派です。実は私も勇者くんの新しい身体を見てたら、すっごくおっきくなっちゃって♡……ええ、これからもずっと私のふたなりチンポで祝福してあげますね♡」

「まずは、キミのメス穴を祝福してあげるおちんちん様にキスから、んっ♡……ふぁっ♡……んぁ♡ それでは……♡」